

特集 東部処理場はプロポーザルで撤去・整備



プロポーザル方式って何!?



この内容に関連する資料はこのQRコードから

プロポーザル方式とは

プロポーザルは「企画、提案」の意味で、主に公共調達において複数の事業者事業内容に関する企画書等の提出を求め、その企画内容について審査を行い、最も優れていると、審査されたものを調達先(契約先)に選定する方法のことです。主に行政が業務の委託先や建築物の設計者を選定する際に用いられる手法です。

プロポーザル方式で成果をあげた所沢市

当市で進められている「東福間駅周辺地区都市再生整備計画」の中で東部処理場の撤去・整備の早期の取組みが課題として挙げられています。規模の違いはあるものの一般質問であげた所沢浄化センター

跡地の取組み事例を紹介します。

所沢浄化センター跡地の解体に14億円

所沢浄化センターは平成24年に廃場となり、市で解体することになりましたが、解体費用が14億円かかることから、解体も含めたプロポーザル方式で売却が進められることになりました。

解体も含めて買いたい企業に売ってことだね。

副市長のこの一言で現状のまま、売る事業が始まった!?

(所沢市説明資料より)



処理場整備



市の考えは

浄化センター売却までの経緯は

平成25年10月に所沢浄化センター跡地利用事業者選定委員会を設置し、応募要項(骨子)を11月に公表。関係する2地区の自治会へ各2回の住民説明会を実施しました。平成26年1月に募集要項の公表。3月を公募の締め切りとし、2月に募集要項に対する質疑の回答と公表。5月にプレゼンテーション審査と選定会を実施。5月末に選定された応募者と基本協定の締結、6月には締結された内容について住民説明会を開催。7月から9月の期間は仮契約の締結、住民説明会、売買契約締結。10月に所有権を移転し、所沢浄化センター跡地は33億円で売却され事業が進められることになりました。

売却の選定にあたって

所沢市が進める、マチごとエコタウン所沢構想への貢献度等、土地の買い受け希望価格等を選定条件にあげ、住民説明会等スピード感を持って進めたことが成功へつながったものと考えます。

浄化センターは「ところざわサクラタウン」に

民間企業が建設する施設を活用して、行政が周辺環境を整備。官民共同で事業を展開することで、産業振興や地域の魅力創出に繋がり、令和2年にグランドオープンした浄化センターは「ところざわサ

クラタウン」という名称となり、まさに新たな人の流れを生み出しています。



図書館や多目的ホールが入る「ところざわサクラタウン」

官民共同で東部処理場の早期着手を

住民説明会で多く要望が出された東部処理場の撤去・整備は、市の計画では依然として令和9年～11年の実施予定となっています。所沢市の事例であげたように、施設の撤去・整備を含めた東部処理場の「プロポーザル」等を検討し、早期に解決することを住民は望んでいます。



規模は所沢の約10分の1、駅に隣接した東部下水処理場